オーディオ実験室収載

Brooklyn DAC+の導入(4)
—S/PDIF 入力(4)—

１．はじめに

前報(3)に引き続き、Brooklyn DAC+の S/PDIF 入力の試聴を実施します。

２．Brooklyn DAC+の試聴方法

試聴方法は、前報(1)と同様ですが、CD トランスポートは、4716 信楽に固定します。
Brooklyn DAC+ の S/PDIF 入力端子に DACU-500 を装着します。
この状況で、9.2.5 Sync の Broolyn DAC+クロックを INT/IN/WCK と切り替えます
切り替え可能な選択肢は次のとおりです。

IN
INT（44.1KHz, 48LHz, 88.2KHz, 96KHz, 176.4KHz, 196KHz）
WCK

音源は聴きなれた CD をいくつか選定して聴いていきました。
なお、この時点でディーラーに質問しているクロック関係の情報の回答がありませんでしたので、恐る恐る試行錯誤のテストになりました。

３．Brooklyn DAC+の試聴結果

INT では 44.1KHz 以外は一応選択できましたが、ノイズが入ったり、音が出なくなったりと SRC 機能はなく、IN で送られてくる周波数を選択する必要がありました。従って、WCK の場合も、GPS-777 から 44.1KHz を入力します。

上記のクロックを切り替えていきますと、IN→INT（44.1KHz）→WCK（44.1KHz）の順に音の焦点が定まってきます。IN は余分な響きが乗っているようですし、INT（44.1KHz）もかなりのところ音質のグレードが上がり、内蔵フェムトクロックが優

秀であることが分ります。恐らく並みの外部クロック入力を凌ぐものと思われます。しかし、GPS-777 の WCK（44.1KHz）の方が、音の艶とか、音像の立ち具合がしっかりしていることが分りました。
ここで、前報(2)で実施した、CCV-5 を介在させ、CCV-5 に GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力し、9.2.5 Sync の Broolyn DAC+クロックを IN にした場合と 9.2.5 Sync の Broolyn DAC+クロックを WCK にした場合を比較してみます。すなわち S/PDIF 入力のクロック品質を上げておくか、入力後のクロックの打ち直しを採るかの比較です。結果は、音のメリハリがしっかりしている点で、ダイレクトに Broolyn DAC+に外部クロックを入力する方が良さそうだということになりました。

４．まとめ

クロックの違いを検証し、内蔵フェムトクロックの利用や GPS-777 からの外部クロック入力の効果を認めました。

以上